四国・水こぼれ話
Water Information Saloon Shikoku
談話室 Vol 94

四国―南南西に進路をとれ！

高知県　大月町長
柴岡（しばおか）　邦男（くにお）

高知県の西南端、三角形状の 103 平方キロに暮らすまちびと 6,600 人。南に、雄大な沈降式から優美な箱庭的景観に変化する海岸線を持ち、北西側には、穏やかな豊後水道に囲まれたなだらかな丘陵地で、一次産業の農漁業を中心とする生計を営んでいる。黒潮分岐流が入り込む温暖な気候の丘陵地には県下一の葉たばこ栽培地が拡がる。その畑地に数年前、一人の農家青年のつぶやき「みんなの笑顔が見たいねや～」がきっかけとなり、一人又一人と仲間が集まる人の輪が出来上がった。甲子園球場 6 個分の敷地に 2,000 万本が咲く四国有数規模のコスモス祭りへと変貌した。近年は高知市近郊を問わず各地から訪れる人が来るまでに成長している。三面のうち二面を海に囲まれた町には、陸域と並ぶ海中景観が広がっている。温帯から亜熱帯性気候に恵まれた海には、日本産魚種の 1/3 に及ぶ 1000 数種が確認されている。魚種はもとよりサンゴ群集景観が拡がる特異な多様性により 4 箇所が海中公園区域に指定され、本土有数規模のサンゴが織りなす亜熱帯と見まちがう景観は多くのダイバーを引きつけている。特に柏島周辺は世界に比肩するマクロのダイビングスポットとして知られている。

そんな町に、平成 13 年 9 月初旬、町史始まって以来と言われる未曾有の豪雨が襲った。集落の中心を流れる川が氾濫し、屋根裏にまで達する水に追われ、屋根に駆け上がり助けを求める人達。326 件、70 億円を超える激甚災害に見舞われながらも、一人の犠牲者も出さなかった背景には、お年寄りの普段の生活までよく知る人と人との繋がりがあった。地域の助け合いとともに、各地から駆け寄ってくれたボランティアの汗も、復旧への大きな力となった。以来、激しい雨が降れば被災の生々しい記憶とともに、防災出動の準備を意識する習慣となった。あの災害にまた見舞われるかもしれない豪雨ではなく、環境に優しい風力発電の羽が、町並みを見下ろす尾根に 12 基並んだ。まさに、可憐なコスモス畑の真上にやさしい風を吹き込むように、まちのゆるやかな発展と優しい人の輪を象徴するように回り続けている。そんな風車とともに、おだやかな風、水、光を浴びて、ゆっくりと前進していく町を目指したい。

満開のコスモス

西南豪雨、激流に流される車

柏島の海

尾根に並ぶ風車群